

BREXITの影響は「限定的」

2016年世界成長率見通し3.3%を継続

ドイツ・アセット・マネジメント
アジア太平洋地域CIO ショーン・テイラー氏



ドイツ・アセット・マネジメントは20日、アジア太平洋地域の投資運用業務を統括するショーン・テイラー氏によるマスコミ向け説明会を開催。BREXIT決定後も今年の世界成長見通しを3.3%に据え置いた理由が語られた。

当社ではBREXITが世界経済に与える影響は限定的だと考えている。確かに欧州の政治的な不透明感は高まった。しかし今後も、低金利環境において投資家がリターンを求める投資行動を継続すると見込まれる上、欧州中央銀行を中心に、各

国の中央銀行による景気刺激策などが市場を下支えすると期待される。地域別状況を確認したい。

欧州：震源地の英国について当社では今年成長見通しを0.8%から0.5%に引き下げたものの、中

央銀行による景気下支えが続く限り、欧州全体を巻き込むようなリセッションは引き起こされないだろうと考えている。英国では今後、格付の引き下げや貿易障壁の拡大といった弊害が想定され、ボンドが大きく下落したが、株価指数は堅調に推移している。

ただ、欧州各国では来年にかけて重要な選挙を控えており、そのような相手と英国はEU（欧州連合）離脱交渉を進めなければならぬ。引き続き政治が市場を揺さぶることになりそうだ。

米国：BREXITが経済成長に大きな影響を及ぼすとはみていない。利上げは「7月中」とした市場予想が「年末」に後ズレしたが、先進国で唯一、金利政策の正常化への道を歩むという方向性は変わらない。

中国：経済再編が長引くものの、世界で最も懸念が少ない地域のひとつでもある。当社では今年成長見通しを6%から6.3%に引き上げた。年内にも始まる深圳・香港市場の株式相互取引というポジティブな材料もある。

新興国：新興国の資産は昨年、ドル高、原油価格急落を背景に大きく売られたが、足元ではドル高が一巡、原油価格も安定したため、これ以上の下押しリスクは小さいと考える。ただし企業収益の改善がいまだ確認されておらず、投資には選別が不可欠。